

### 新聞掲載記事

## 外国人患者受け入れ医療機関

### 松波総合病院が認証

松波総合病院（笠松市）に続いて認証された。町田代）が、日本医療教育財団（東京都千代田区）から「外国人患者受け入れ医療機関認定制度」の認証を受け、加している同病院、患者が英語や中国語、韓国語などの言語で利用した多言語対応サービスが評価された。

同制度では、訪日外国人観光客の増加を見据え、医療施設での外国人の受け入れ体制を総合的に評価する。同病院は3月13日に全国で41番目、県内では木次記念病院（美濃加茂）に続いて認証された。

示に英、中、韓の3言語を加えたほか、タブレットでの記入を記録し、管理するためのマニュアルも整えた。導入を担当したクオリティ管理部の足立



成道部長は「受け入れの基礎ができた。今後も改善し、不安を抱える外国人患者が安心して利用できる環境を整えたい」と話した。

（龜山大樹）

岐阜新聞 2018.4.13

## 産科医命の重み説く

松波総合病院（笠松町）の産科医川嶋市郎さん（62）が21日、岐阜市梅林中学校で、全校生徒と保護者計四百五十人に命の大切さについて講演した。

（北村希）



産科医の立場から命の大切さを伝える川嶋さん＝岐阜市梅林中で

### 岐阜の梅林中 全校生徒と保護者に

同校では毎年、親子で学ぶ講演会を開催。今回は産科医現場で深い経験を持つ川嶋さんを講師に招いた。

川嶋さんは、これまで自身が扱ったハイリスク分娩の様子を写真や映像で紹介。「意味のない命など無く、命は自分だけのものではない。今後の人生大事に生きてほしい」と呼び掛けた。

望まない妊娠や中絶が後を絶たないことに触れ、その理由を「若いからとかではなく、妊娠が女性の健康や人生に重大な影響を及ぼす」という意識がないから」と指摘。「性交のリスクをきちんと理解し、責任を持つことが大事」と語り掛けた。

生徒会長で三年の波多野さんは「生まれてくるとは、奇跡に近いのだと実感した。自分の事も周りの友達も、大切にしていきたい」と話していた。

中日新聞 2018.4.22

## 情報ファイル

◆医療機器認証取得 トーカイは23日、TDKと昭和電機産業（各務原市）と共同で開発したリストバンド型ウェアラブル機器とデータ送信用機器が、国からクラスIIの医療機器認証を受けたと発表した。

松波総合病院（羽島郡笠松町）が考案した身体情報を病院に常時送信して監視する在宅医療支援システム「いつでもウォッチ」に賛同して開発。脈拍を24時間遠隔でモニタリングして情報を病院に送信し、異常値が出ると警告音で知らせる。

岐阜新聞 2018.4.24

## 外国人への安心医療認証

# 松波総合病院が取得



日本語での会話が難しい外国人でも、安心して医療サービスを受けられる体制を整えているとして、笠松町田代の松波総合病院が、一般財団法人「日本医療教育財団」（東京）の「外国人患者受入れ医療機関認証（JMIIP）」を受けた。三月十二日までに、全国四十一機関が認証を受け、県内では木沢記念病院（美濃加茂市）に続いて二例目。

JMIIPは、厚生労働省による診療案内や、異対応を各財団が審査部署が創設し、多言語文化や宗教に配慮した。する。

### 県内2例目 9言語に対応可能

松波総合病院は、周知で外国人患者が増えていることから、昨年九月に、通訳専用のタブレットを導入。医療用語を通訳できる専門スタッフがタブレットを介して、医師と患者の会話を手助けする。英語や中国語、韓国語など九言語に対応が可能。九言語の間診票も用意した。

病院では、月に二十人ほどの外国人が診療に訪れるという。クオリティ管理部の足立成道部長は「通訳のできる職員を雇うことも含めて、外国人患者の受け入れの体制を強化していきたい」と話した。

JMIIPの取得を手に、多言語に対応した専用タブレットについて話す松波総合病院の認証検査官。

中日新聞 2018.4.27

高齢化社会に伴い、増えつつある病気の一つに大動脈弁狭窄症があります。心臓の四つの部屋の出口に弁があり、心臓から大動脈に出ていく最後の出口が左心室についている大動脈弁です。3枚の花びらが合わびたような形で、左心室から大動脈へ血流をスムーズに流す役割をしています。

大動脈弁狭窄症とは、この弁が硬化した上に開かなくなるとなり、原因の80%以上が加齢による組織変性です。心臓は一日に10万回も拍動しています。それに伴い、弁も10万回開閉を繰り返すので、長年を繰り返すうちに硬くなり、開かなくなる場合があります。



## 大動脈弁狭窄症

# 加齢で弁が硬くなる

高齢者の正常弁の4割が5年間の経過で硬化症となり、その1%が狭窄症になったとのこと。重症になれば、手術やカテーテルで弁を取り換える治療（弁置換術）が必要となります。日本では、2008年は約6500件だった手術が、16年には約1万件に増加しています。手術ができ

ない高齢者へのカテーテル治療（TAVR、TAVI）も1600件行われています。75歳以上の弁狭窄症の9割が、大動脈弁狭窄症によるものです。

診断と治療方針の決定には、心エコー検査で弁の傷み具合を調べ、重症・中等症・重症に分類します。重症になると労作時の息切れや失神、狭心症や心不全が起きます。最悪の場合突然死につながります。手術の絶対適応ですが、エコー検査では症状が無い患者も多く存在します。

大動脈弁狭窄症と診断で、必ず手術をしなければいけないのでしょうか？ この病気で重症に分類されても、繰り返しの症状が無ければ、1年後の生

では脳卒中、透析を必要とする腎臓病が報告されています。持病がある、この数字はもっと高くなります。

患者と人工弁のミスマッチ（PPM）の問題も深刻です。人工弁にはサイズがあり、必要十分なサイズが弁でなかった場合には、人工的に狭窄が作られてしま



上野勝己氏

循環器内科医

大動脈弁狭窄症の前段階が大動脈弁硬化症です。米国の調査では65歳以上の3割に大動脈弁硬化症があり、その2%に狭窄症が認められました。別の調査では、心エコー検査で弁の傷み具合を調べ、重症・中等症・重症に分類します。重症になると労作時の息切れや失神、狭心症や心不全が起きます。最悪の場合突然死につながります。手術の絶対適応ですが、エコー検査では症状が無い患者も多く存在します。

大動脈弁狭窄症と診断で、必ず手術をしなければいけないのでしょうか？ この病気で重症に分類されても、繰り返しの症状が無ければ、1年後の生存率は94%と報告されています。積極的な治療をした方が良いというわけではな

いのです。症状が無い場合、数カ月ごとに心エコー検査で経過を見て、症状が出現したら人工弁への置換手術などの治療を考えます。高齢者はこの慎重な判断が必要で、80歳以上では手術の死亡率が7〜14%もあり、術後の合併症

## 無症状の場合、経過観察でも

新しいカテーテル治療では、ウシの心臓から作られた生体弁を押し込みます。長期的な成績が不明なため、今は手術のできない高齢で、合併症のある重症患者に限定的に施行されています。製造企業は、これら重症患者への通常の内科的治療では、5年後の生存率は6%でしたが、カテーテル治療がうまくいくと生存率は30%でした。慎重な判断が必要となります。

これから大動脈弁狭窄症と診断される高齢者が増えています。無症状の場合には、経過観察を選択しても間違いではありません。かかりつけ医とよく相談しましょう。（松波総合病院心臓疾患センター長、羽島登志松町田代）

岐阜新聞 2018.4.30

# 在宅患者 24時間把握

在宅医療の普及に伴い、在宅患者の急増が懸念されている。在宅医療の普及に伴い、在宅患者の急増が懸念されている。在宅医療の普及に伴い、在宅患者の急増が懸念されている。

## 岐阜の病院など開発

### 腕時計型 脈拍数を自動送信



在宅患者の腕に着けるだけで、パソコンなどのモニターで脈拍数が確認できる「いつでもウォッチ」。

在宅医療の普及に伴い、在宅患者の急増が懸念されている。在宅医療の普及に伴い、在宅患者の急増が懸念されている。在宅医療の普及に伴い、在宅患者の急増が懸念されている。

## 「在宅」急増 25年には100万人

高齢者が住み暮らす背景には、在宅医療を受ける人は急増すると見込まれることが挙げられる。厚生労働省によると、2014年の約65万人から、25年には約100万人に達する見通し。医師やベッドの数が限られるため、同省は診療報酬を手厚くするなどして在宅医療を推進している。同省在宅医療推進室の担当者は「医療の有効性が分かれば、在宅医療を普及させる参考になる」と期待する。

読売新聞 2018.5.8



今井篤志氏

産前から初産にかけて流行する感染症に、風疹があります。風疹ウイルスが原因で、かつては誰もが子どもの時にかかる病気でした。ほぼ5年ごとの周期で、大きな流行が発生していますが、2012〜13年にかけての大規模な流行では、患者の約9割が成人でした。

## 先天性風疹症候群

風疹は子どもの場合、症状はあまり重くない病気ですが、妊娠中の女性が風疹にかかると、風疹ウイルスがお腹の赤ちゃんに感染して難聴、心疾患、白内障、そして精神や体の発達遅れなどの障がいがある赤ちゃんが生まれる可能性があります。これを先天性風疹症候群と言います。

| 生年月日                        | 風疹への抵抗性   |
|-----------------------------|---|
| 1962年4月1日以前生まれの男女           | 定期接種がないが大半が自然に風疹に感染することで免疫がある。  |
| 1962年4月2日～1979年4月1日以前生まれの男性 | 女子中学生のみ対象で、学校で集団接種が行われ、自然に風疹に感染する機会が減少したが、男性は定期接種制度が行われず風疹の免疫がない人が多い世代。           |
| 1979年4月2日～1987年10月1日生まれの男女  | 男女とも中学生で予防接種対象だったが、個別に医療機関での接種制度で接種率低く、風疹の免疫がない人が多い世代。                            |
| 1987年10月2日～1990年4月1日生まれの男女  | 男女とも幼児期に予防接種対象となり接種率は比較的高いが、自然に風疹に感染する機会がさらに減少したため、接種を受けていない人には風疹の免疫がない人が比較的多い世代。 |

## 妊娠中に胎児へ感染

妊婦さんは、感染力がある風疹ウイルスに感染すると、胎児に感染する可能性があります。胎児に感染すると、先天性風疹症候群の原因となります。妊娠中に感染を防ぐためには、ワクチン接種が重要です。

## 周囲のワクチン接種 重要

自分が風疹に抵抗性を有するかどうかは、風疹ウイルスに対する抗体を調べればわかります。抗体が十分だと判明した場合には、風疹ワクチン接種を受けましょう。周囲のワクチン接種も重要です。

岐阜新聞 2018.5.28



患者らに向けて演奏する桐の響を楽しむ会のメンバー  
＝松波町の松波総合病院で

院内の患者らに  
安らぎの演奏会  
笠松の病院  
等松波町の松波総合病院で  
十四日、県内出身のクラシ  
ック音楽家をつくる「桐の  
響を楽しむ会」の演奏に患  
者らが聞き入った。  
コンサート会場へ行きつ  
た。(北村祥之)

中日新聞 2018.6.15

在宅医療患者の脈拍データを  
リストバンド型医療機器で24時  
間把握し、医師らが急変時のア  
ラートや患者の呼び出しに迅速  
に対応する管理システム「いつ  
でもウォッチ」の運用が、県内  
や関東圏の一部医療機関などで  
8月から始まる。システムを考  
案した羽島郡医師会長の松波英  
寿・松波総合病院理事長は「在  
宅医療を受ける患者や家族だけ  
でなく、医療従事者の安心にも  
つながる」と意義を語る。  
同システムは、トーカイ（岐  
阜市若宮町）が大手電子部品メ  
ーカーTDK（東京都）と共同  
開発し、4月に医療機器認証を  
取得したウェアラブル機器「i  
Aide（アイエイド）」を活用  
。装着した患者の脈拍数を常  
時測定し、リアルタイムで主治  
医のパソコンや患者家族の携帯  
電話などにデータを発信する。  
医師は患者情報を一瞥で把握  
し、異常値や脈拍数の停止が検  
知されたり、患者が機器の呼び  
出しボタンを押ししたりすると音  
声アラートが鳴り、消防署や訪  
問看護ステーションなどに対応

# 在宅患者、いつでも安心

## リストバンド型機器で脈拍データ発信

### 羽島郡医師会が導入へ



新たな在宅患者管理システムで使用するリストバンド型医療機器「iAide」を紹介する松波英寿理事長（左）と小野木孝二社長＝22日午前、羽島郡笠松町田代、松波総合病院

を要請する。  
機器は防水性で、1時間の充  
電で10日間ほど利用でき、付属  
する携帯型の送受信機を含め月  
額3千〜4千円程度でレンタル  
できる。  
医療費削減に向け、政府は入  
院患者向け病床の削減を各都道  
府県に求めており、在宅医療の  
推進は今後さらに加速する。  
松波理事長は22日、トーカイ  
の小野木孝二社長と同病院で会  
見し「自宅に病棟と同じような  
機能を持たせ、地域全体を療養  
病床化できる世界でも先駆的な  
取り組み」と強調。同郡医師会  
で8月下旬の導入を予定する。  
小野木社長は「病気の早期発  
見による健康寿命の延伸や遠隔  
地のオンライン医療の質向上に  
貢献したい」と語る。当初は1  
千〜2千台の導入を見込み、医  
療機関や各医師会を通して全国  
に展開する。(龜山大樹)

### 在宅患者を見守る 脈拍測定 医師呼び出し機能

松波総合病院（笠松町）と医  
療介護支援のトーカイ（岐阜  
市）は二十日、在宅患者らを  
二十四時間体制で遠隔から見守  
る「いつでもウォッチ」を共同  
開発したと発表した。今春に医  
療機器認証を受け、八月から医  
療機関へ提供を開始する。  
いつでもウォッチは重さ約二  
十五グラムで、患者に腕時計のよう  
に装着してもらうと、脈拍数の  
データが担当医師のパソコンや  
スマートフォンに即時に送信さ  
れる。脈拍数に異常が見られ  
たり、患者が緊急呼び出しボタ  
ンを押し続けると、アラームが  
鳴り医師に知らせる。  
本人の同意があれば、医師以  
外に看護師や家族、地域住民ら  
も管理画面を見ることができ、  
アラームへの対応が取られたか  
どうかも確認できる。脈拍測定  
や呼び出し機能を兼ね備えた同  
様の機器は、全国初という。  
本年度は県内の病院を中心に  
千〜二千台の提供を考えてお  
り、一台あたり月三千〜四千元  
で貸し出す。  
同院であった会見で、松波英

## 腕時計型の医療機器開発



松波総合病院とトーカイ  
「いつでもウォッチ」を披露  
する松波理事長と小野木社  
長＝松波町の松波総合病院で

中日新聞 2018.6.23

岐阜新聞 2018.6.23

## 「24時間見守り」8月から

松波総合病院 在宅患者 腕時計型機器で

松波総合病院（笠松町）と病院・介護関連サービス会社「トーカイ」（岐阜市）は22日、在宅医療を受ける高齢者向けに、24時間態勢で見守るシステム「いつでもウォッチ」を使ったサービスを8月から開始すると発表した。

このシステムは、同社などが開発したリストバンド

型の防水仕様端末機器「iAide（アイエイド）」を使用。在宅患者が腕につけておけば、脈拍の状態が即時に医師などのパソコンやタブレット端末に反映される。脈拍数低下などの異常

常があると自動的に通知され、体調の変化もボタンを押すだけで伝えられる。

機器は医療機関や介護施設を対象に1台あたり月額30000〜40000円（見守りサービスも含む）で貸し出す予定で、今年度は1000台ほどの利用を見込んでいるという。

機器を考案した同病院の松波英寿理事長は「このシステムで、自信を持って在宅医療を進められる社会になる」と話し、トーカイの小野木孝二社長は「機器は、これからの医療・介護の分野で役立つことが多々あると思う」と意気込んだ。



腕に機器をつけた松波理事長（左）と小野木社長

## ウェアラブルの端末で健康管理

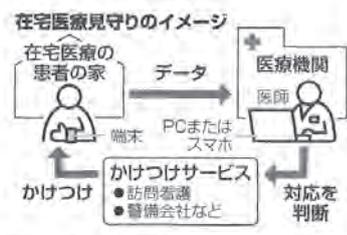
トーカイと松波総合病院（岐阜県笠松町）は22日、ウェアラブル端末を使って在宅患者を健康状態を管理するシステム「いつでもウォッチ」を両社などで共同開発したと発表した。

患者が腕時計のように終日装着して使う。脈拍数に異常があれば、在宅担当医などのコンピューターに送信されて、対応する仕組み。8月から運用する。

## 在宅患者 24時間自動見守り

岐阜の病院など開発 異常・救急搬送も

在宅医療を受ける患者を24時間体制で見守るシステムを、松波総合病院（岐阜県笠松町）が来年度から導入することを検討している。腕輪型端末で患者の健康状態を常に把握し、異常



腕輪型端末は自動で脈拍を測り、データを医師らのスマートフォンに送信する

があれば医師らに連絡が入り、救急搬送などを指示する。高齢化が進む中、患者が安心して過ごせる環境づくりを支援する。

松波総合病院と医療関連サービスのトーカイ（岐阜市）が連携して開発した。複数の医療機関が導入し、安心を寄せているという。使用する端末は約25万の患者のデータを常に把握できる仕組みになっている。

異常なデータが検出された場合は、医師のスマホなどにアラームで知らせる。医師は送られてくる患者の健康状態についてのデータを参考に、必要な措置を取

朝日新聞 2018.6.23

読売新聞 2018.6.23

# 移植の先駆者 挑戦今も



新たな医療に取り組む  
松波総合病院理事長

松波 英寿さん 61

在宅医療を営む高齢者を 24時間態勢で見守るシステム「いつでもウォッチ」、人工膜を使った肥満症治療、患者の医療ニーズを医療機関と共有するネットワークシステム。「誰もやっていないこ



信州大、岐阜大、松波総合病院理事長。2001年から松波総合病院の眼科部長として、肥満症治療の研究に力を入れている。近頃は、人工膜を使った肥満症治療、患者の医療ニーズを医療機関と共有するネットワークシステムに取り組んでいる。誰もやっていないことを

「僕は天才じゃないから、普通のことをやっていたら期待に応えられないと気付いた。人が飛びつかないものに挑戦し、注目を集めようと思った。エキセントリックに見えるし、大変だけれど、結果的にはそれが良かった」。松波は、岐阜大学の助手だった約30年前に訪れた。当時、世界的に腎臓移植の心が高まっていた肝臓移植を学ぶため、思い切って日本を飛び出し、オーストラリア・ブリスベンに留学。1988年、当時1歳だった日本人男児を対象にした生体肝部分移植を世界で初めて成功させた。帰国後は、日本の大学の閉鎖性も実感した。他大学で行

### 返済不要の奨学生募集

岐阜、三重県をエリヤのL.C. 来春進学の高3対象とするライオンズクラブ国際協会334-B地区(松波英寿ガバナー)は、来年4月に志望校に合格後、入学する高校3年生を対象に、入学金や授業料に充てる返済不要の奨学金として、1人当たり年間125万円を上限とする奨学金を募集している。



奨学金制度への応募を呼び掛ける松波英寿ガバナー(右から2人目)ら。羽島郡笠松町美笠通、ライオンズクラブ国際協会334-B地区キャビネット事務局

同地区の本年度記念事業として初めて実施。履歴書と将来の夢に関する小論文に、高校長の推薦書と成績表、保護者の所得証明書を添え、羽島郡笠松町美笠通、コマヤマリックビル内の同キャビネット事務局に提出する。募集期間は8月31日まで。問い合わせは同事務局、電話058(201)1230。(亀山大樹)

読売新聞 2018.7.2

# 西日本豪雨の被災地支援 岡山に医療チーム派遣

## 松波総合病院 避難所で活動へ

西日本豪雨の被災地を支援するため、松波総合病院（羽島郡笠松町田代）は3連休初日の14日、医師らで構成する全日本病院医療支援班（AMAT）を被災地の岡山県へ派遣した。15日から2日間、主に避難所での災害医療活動に当たる。全日本病院協会災害対策本部の要請で、救急科部長の八十八雄医師（44）と杉原智子看護師長（46）、西川哲史調整員（40）の3人を派遣する。



出発式で決意を語る杉原智子看護師長（左から2人目）と西川哲史調整員（左）＝14日午前、羽島郡笠松町田代、松波総合病院

災害発生から時間がたつと、避難所生活で体力の低下などが懸念される被災者の診察や治療、病院への搬送などを担う。

出発式が同病院で行われ、松波英寿理事長らスタッフ約40人が、途中合流する八十八雄医師を除く2人を見送った。杉原看護師長は「暑さによる熱中症や感染症が心配。内因性疾患を洗い出して速やかに医療を行いたい」、西川調整員は「隊

の安全を守るよう頑張りたい」と意気込んだ。

同病院は、東日本大震災や熊本地震の際にも医療チームを派遣している。

（亀山大樹）

岐阜新聞 2018.7.15

# 「復旧支援まだまだ必要」

## 豪雨被災の倉敷市に派遣、松波総合病院チーム



西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市での医療支援活動を終え、現地の様子を語る八十八雄医師（中央）ら＝羽島郡笠松町田代、松波総合病院

### 活動報告 避難所から患者搬送

西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市で、16日まで医療支援活動を行った松波総合病院（羽島郡笠松町田代）の全日本病院医療支援班（AMAT）が同病院に戻った。メンバーの八十八雄医師（44）は本紙の取材に、「近年の災害の経験から医療態勢は整ってきたが、復旧はまだまだ進んでいない」と厳しい現況を語った。（亀山大樹）

全日本病院協会災害病院は医師と看護師、対策本部の要請で、同事務調整員の3人を15

日から2日間派遣。広範囲に浸水した同市真備町で避難所となつて、救急患者の病院搬送を支援し、6件の搬送があった。

八十八雄医師によると被災者は日中、自宅で家財の片付けや泥の撤去に追われ、長引く避難所生活で持病の悪化や酷暑による熱中症、皮膚や目の感染症が発生。熊本地震の被災地での活動経験もある八十八雄医師は「水分補給を徹底したり、地元医師会が連携して皮膚科や眼科の専門医が避難所に対応したりするなど、医療態勢は改善されてきている」と話す。

熱中症で病院搬送される患者の半数が屋外で活動に励む外部からのボランティアといひ、

「被災地に来るボランティアは十分に水分を用意するよう徹底してほしい」と呼び掛ける。

避難所への移動中、住宅の2階部分まで達した泥水の跡や大量のがれきりなど、豪雨の爪痕を目の当たりにしたとし、「担当した避難所ではまだ家に帰れた被災者はおらず、学校も夏休み明けまで再開は難しそう。まだまだ支援が必要」と述べた。

3人は17日夕に帰還し、職員らの出迎えを受けた。

岐阜新聞 2018.7.19

# 教えて ホムドクタイ

連日の猛暑で、熱中症が心配な季節となりました。昨年は5・9月に、全国で5万2984人が熱中症で救急搬送されました。注目のべきは、熱中症の最も多い発生場所が住居ということ。6・9月の熱中症による死者は、2010年が1684人と最多で、昨年は574人、65歳以上が半数を占めていました。

熱中症には、主に屋外でのスポーツや労働時に発生する「労作性熱中症」と、日常生活の中で高齢者に多く発生する「非労作性熱中症」に分けられます。労作性熱中症は健康な人が短時間で発症するため、発見も容易で重症例は少ないのですが、それでも注意が必要

## 熱中症対策



上野勝己氏

循環器内科医

そしてむしろ、危険なのが非労作性熱中症です。知らぬ間に進行して発見が遅れ、気付いた時には重症化していることが多いのです。高齢の1人暮らしの女

水状態になっていると循環する血液量が減るため、ますます放熱できなくなりま

夏場は内服薬の調節も大切です。

予防はこまめな水分補給と暑さに負けない体作りです。食事を十分に摂取できている場合には、日本高血圧学会が勧めるように水分補給だけでもよいでしょう。しかし、夏バテで食事が減っている場合、特に高齢者は水だけでなく、塩

場合、1日に0.5〜1リットルの摂取が目安です。市販のスポーツドリンクはすぐ手に入り、冷えたペットボトルは脇の下や頭を冷やすのも使えます。しかし塩分量が少なく、糖分が多いので、予防的に飲むのには向いていません。水1リットルに食塩ひとつまみ(1〜2g)と砂糖大さじ2〜4杯を溶かし、レモンなどで風味付けしたものを勧めます。

体作りですが、放熱する

## 水分と塩分補給重要

性)が多く、心疾患、高血圧、糖尿病、認知症は重症化の危険因子です。

体から熱を外に逃がす方法は二つで、皮膚の血流を増やすことと汗をかくことです。心臓病がありポンプ機能が低下していると、皮膚の血流を十分に増やせず、利尿剤などの内服で脱

分の補給が大切です。熱中症の第一段階の症状にむら返りがありますが、これは血液の中のナトリウム不足で起ります。尿が出ない、脈が速いのも脱水の重要なサインです。兆候に気付いたら、経口補水液など塩分と適度に糖分を含んだ水分の補給を勧めます。成人の

能力は暑い日が続くと体慣れて、強くなります(暑熱順化)。梅雨明け後の急に暑くなった時期に熱中症が多いのは、暑熱順化が十分だからです。暑熱順化するには運動で汗をかくことが良いようですが、屋外は危険なので、ジムなどを

## 高齢者、知らぬ間に進行 重症化

治療の原則はなんともいっても早期発見です。熱中症は重症度に応じてI〜III度に分けられます。大量の発汗に伴う、めまい、立ちくらみ、生あくびや、こむら返り、尿色のけいれんが出たら熱中症の始まり(1度)です。すぐに日陰や冷房の効いた部屋で横になり、足を少し高くし、衣服を脱ぎ、うちわで風を送り、濡れたタオルで体を拭いて冷却させ、水分と塩分を補給しましょう。頭痛や強い倦怠感、呼び掛けへの反応が鈍い場合、症状はII度の状態です。医療機関を受診し、点滴などの処置が必要で、全身がけいれんし、まっすぐ歩けない(小脳症状)のは危険な状態(III度)で、速やかに救急車を呼んでください。また夏場に多い脳梗塞との鑑別も重要です。

(松波総合病院心臓疾患センター長、羽島郡笠松町田代)

岐阜新聞 2018.7.23

## 県内初の「診療看護師」

松波総合病院(羽島郡笠松町)救急総合診療科の兼原成郎看護師長(40)が、医師との協働で診察や検査などを行うことが可能な「診療看護師」に県内で初めて認定された。高齢社会で医療の需要が高まる中、「チーム医療の中で医師と看護師の橋渡し役を担いたい」と意気込む。

診療看護師は、動脈血の採血や気管チューブの位置

## 松波総合病院 葉原さん認定

### 医師と看護師「橋渡しを」

調整、褥瘡(床ずれ)部の除去など、医師の指示の下で行う特定行為21区分全38行為に加え、超音波検査など、医師の承認を受けて診察や治療につながる検査ができる。通常は各行為ごとに研修を受けないと行えないため幅広く対応が可能。医師と看護師の間に



県内で初めて診療看護師の認定を受け「チーム医療の中で医師と看護師の橋渡し役を担いたい」と話す兼原成郎看護師長(羽島郡笠松町)と松波総合病院

位置する存在で、兼原さんは「患者の病状の変化に的確なタイミングで対応できる」と意気込みを語る。

全国の医療機関で構成する日本NIP教育大学院協

会が2011年から認定しており、医療現場での5年以上の経験に加え、診療看護師を養成する大学院で2年間の実習などを修了後、試験に合格する必要がある。兼原さんは休職して16年4月から愛知医科大学大学院で学び、今年3月に試験に合格。同4月に同病院に復職した。

兼原さんが診療看護師を目指した背景に、高齢社会に加え専門領域の細分化が進んで医師が不足し、医師と看護師が緊密に連携する「チーム医療」が重要になって

いる現状がある。「看護師が医師の治療方針を的確に理解、共有して看護計画に反映させることが、チーム医療にとって大切」と説明する。

現在、全国で就業する看護師約120万人のうち、診療看護師はわずか300人ほど。病院組織の中でどのように活用するか、各病院で模索する段階だ。兼原さんは「医師の理解を得ながら可能な特定行為を決めつつ、看護師の育成にも貢献したい」と話している。(龜山大樹)

岐阜新聞 2018.8.6

# 中高生が気管挿管体験



喉頭鏡を使った気管挿管を体験する生徒＝笠松町田代、松波総合病院

松波病院で医療セミナー  
中高生が医療の現場 日、笠松町田代の松波  
を学ぶ「夏休み医療実 総合病院であり、岐阜  
習体験セミナー」が7 地区の中高生6人が実

習などを通して仕事への理解を深めた。

医師の不足や偏在の解消に向け、県が本年度始めた「地域医療を支える人づくり事業」の一環で開催。県内の医療機関の協力で、1日から26日まで、計14カ所で21日間にわたり実施している。

同病院では救急総合診療科などを見学。医師から各科の役割について説明を受けた後、心肺蘇生法や風景画を描いて心の状態を探る心理療法を体験した。麻酔科では、喉頭鏡を使った気管挿管を実習し、生徒は熱心に練習を繰り返していた。

岐南中学校2年の脇田理加さん(13)は「早く挿管ができるようになり、うれしかった。覚える用語も多く大変だが、医療の仕事をやってみたいと思えた」と話していた。

(亀山大樹)

岐阜新聞 2018.8.9

## ドクターの仕事

### 「気管挿管」体験

松波病院で中高生ら

中高生が医療機関での実習を通じて医師の仕事への理解を深めるセミナー「見てもようドクターの仕事！」が七日、笠松町の松波総合病院であり、近隣の中高生六人が、救急総合診療科、小児科、麻酔科の各科で仕事体験をした。

麻酔科では、全身麻酔などで呼吸ができなくなる患者の気道を確保する技法「気管挿管」を体験した。生徒らは喉頭鏡と呼ばれる器具を使って訓練用の人形

の口を広げ、専用のチューブを素早く気管に入れる練習に何度も取り組んだ。

担当した橋本慎介麻酔科医長は「麻酔科医は地味な印象があるが、オーケストラで例えると指揮者の役



気管挿管を体験する生徒ら  
＝笠松町の松波総合病院で

割。幅広い知識が必要で、生命の危機に立つ患者に対応できる知識とスキルが持てる」と魅力を語った。

ドラマの影響で医療の仕事に興味を持ったという岐山高校一年の高島好華さん(16)は「気管挿管は簡単そうに見えたけど難しかった」と話した。

セミナーは、県主催で今年初めて開催。今月中に県内の医療機関十四カ所で、計八十五人の中高生が参加する。県内で特に医師不足に悩む救急、麻酔、産婦人、小児の四科でプログラムが組まれている。

(長崎高大)

中日新聞 2018.8.10

